

銀の知恵

命をつなぐネットワーク

シリーズ第21回 さっぽろ心臓救急最前線

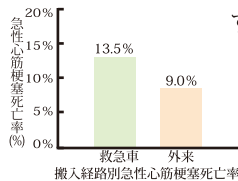
札幌には、全国でも希少な心臓救急の仕組みがあります。そしてその活動は参加病院のボランティアで支えられています。札幌市ACSネットワーク村上先生にお話を伺いました。

「他人事」ではない、循環器疾患

急に「胸が苦しくなった!!」あなたならどうしますか。年を取ると、人間の体にはさまざまな変化が起こります。なかでも心臓や血管に関わる循環器系の疾患は、がんにも並ぶ死因。誰にとっても無縁ではありません。

2003年、市内140病院を対象にひとつのアンケートが行われました。札幌市の急性心筋梗塞による死亡率は12.5%。高齢者の多いエリアほど発生率が高く、「2003年当初でその救命実態は、東京都より10年遅れている」事がわかったのだそうです。

調べていくと「日祭日・夜間の2次救急当番病院が、市全域で1病院」という事実に突きあたりました。「これでは治療開始までにどうしても時間のロスが生まれます」。

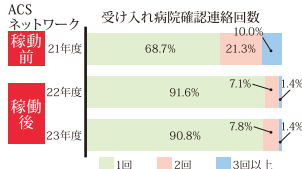


さらに、村上先生を愕然とさせたのは「受診形態による死亡率」でした。「救急車で運ばれる非常に重篤な症状の方と、外来受診できる程度の症状の方の死亡率がほぼ同じだったのです」。

この事実を踏まえ二次救急当番病院の数を増やし、市内各地域に当番病院をつくるために結成されたのが札幌市ACSネットワークでした。

命を守るために、知ってほしいこと

2003年には1つしかなかった循環器呼吸器の救急当番病院は今5病院。うち4病院は札幌市ACSネットワークの18病院が支えています。「救急車はほぼ1回で至近の病院にたどり着くことができるようになりました」。「この体制はすべて病院の完全ボランティア



続けられるよう多くのの人に支えてほしいのです」村上先生は話します。

6月からは救急車と病院間の心電図伝送も開始。「治療チームを1分でも早く集め、準備時間の短縮が可能」とのこと。また「救急車を呼ぼうかやめようか、迷っている時間は平均1時間」といわれています。札幌市では、平成25年度中にそんな方への相談電話を開設するための取り組みも開始しました。

「どこをどれだけ切り詰められるか。搬入まで120分、治療開始まで90分が目安です」。命をつなぐネットワークは、今日もそれぞれの持ち場で時間と闘っています。

※「ACS」とは…日本語で「急性冠症候群」のこと



札幌市ACSネットワーク代表世話人
手稲漢仁会病院
心臓血管センター
循環器内科 センター長
村上 弘則 医師

アで賄われています。全国的に見ても本当にすごいことです。もっと知っていたら、きたいし、活動が

札幌市 ACSネットワーク

札幌市循環器・呼吸器二次救急参画22病院(2012年は26病院)、札幌市医師会、札幌市保健福祉局、札幌市消防局、北海道大学医学部、札幌医大医学部で構成。完全ボランティアの任意団体です。

HP <http://acs.web.fc2.com/>

※法人・個人の皆様から寄付を募集しております。札幌市市民まちづくり活動促進基金(さぽーとほっと基金)HPをご参照ください。

検索 さぽーとほっと基金